

挑む!

発達障害の人が集うバーマスター

はしぎわ つとむ
橋際 義さん(34)



個性とけ合う心地良い場を

大阪・ミナミの東心斎橋。雑居ビルの4階で、発達障害の人が夜な夜な集えるカフェバー「金輝」を営む。

自身も発達障害の当事者だ。職を転々としていた26歳の時、アスペルガー症候群の疑いがあると診断された。中高生時代、国語で小説を読んでも登場人物の感情を推し量れず、テストは散々。普段はおとなしいが、いったん話し出すと止まらず、言わなくていいことまで言ってしまう人間関係が悪化。職場を去る原因にもなった。「今思うと、

神戸市出身。神戸情報大学院大学卒業。得意科目は数学。診断後、「人生リセットしよう」と128日間、バックパックを背負い1人でアジアを巡った。

『アスペルガーあるある』でしたね」SNSの発達障害オフ会で、参加者の生きづらさを聞くうち、「自分だけじゃない」と心が軽くなった。「オフ会のように気軽に話せて、いつでも集まれる場所をつくりたい」。2016

年9月、店をオープンさせた。客が描いたイラストを飾ったり、哲学を論じる発達障害者主催のイベントを開いた。じっとするのが苦手な人のために、知恵の輪などのおもちゃを置く。老若男女だれでも大歓迎。ほぼ毎日、午後早い時間から店を開ける。工夫を重ねるうち、最初はガラんとしていた店に、人が集まるようになってきた。

「苦手分野をサポートし合える仲間を、この店で見つけてもらえたら」。発達グレーゾーンカクテル、多動性カクテルなどメニューの開発にも余念がない。

文・写真 山根久美子

記者から

ここで会う人は裏表がありません。ウソのない言葉に囲まれ、自分らしく過ごせました。